

新本社建設における環境配慮

現在、JR長岡京駅の東側に隣接した敷地に新本社の建設を進めています。この新本社ビルは、「最先端のエコビル」を設計コンセプトとして、建物の建設から廃棄までのライフサイクル全体で省資源・省エネルギーを図るオフィスビルとしており、標準的なオフィスビルに対して、約30%のエネルギー削減施策が盛り込まれています。

■ 環境の世紀にふさわしい本社ビルが、今秋完成します。

1. 省エネルギー

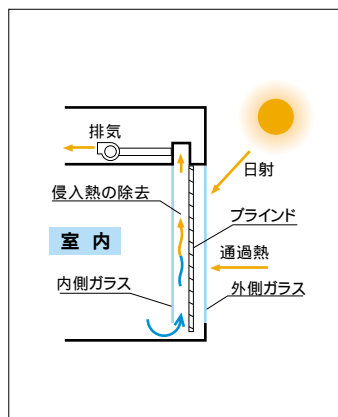
- 建築的手法として、エレベータシャフトや機械室などで構成するコア部分を東西に配置し、日射による熱負荷の多い東西方向を遮断しています。



南北面及びアトリウム(吹き抜け)より最大限の採光が可能な建物形態とし、自然採光により照明用エネルギーを削減しています。



外装サッシュを二重化したエアフローウィンドーを採用し、空調負荷を削減しています。



屋上緑化を行い、緑地による熱の吸収・排出による空調負荷を削減しています。

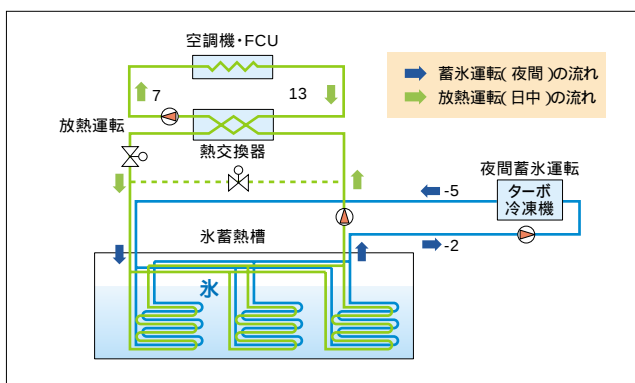




□ 建物の概要

所在地: 京都府長岡京市東神足1丁目10番1号
敷地面積: 12,321.19㎡
建築面積: 3,000㎡
延床面積: 42,500㎡
構造: 鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
高さ: 83m
階数: 地上18階 地下1階 塔屋2階
用途: 一般事務室、応接室、会議室、PRコーナー、食堂、図書室、駐車場 他
総工費: 125億円
竣工予定: 2004年9月末

- 設備的な手法として、
氷蓄熱システムを採用し電力負荷の平準化を図ります。



熱源はターボ冷凍機及びガス吸収式冷凍機を組み合わせたシステムとし、効率を最大限に高めるベストミックス方式としています。

外気冷房システムを採用し、中間期(春・秋)及び冬季の冷房用エネルギーを削減しています。

床吹出空調方式を採用し、吹出口を人感センサーにより開閉することで、空調エネルギーを削減しています。

屋上雨水及び一般雑排水の回収処理を行い、屋上緑地や敷地内緑地への散水、トイレ洗浄水に再利用することにより、水使用量を削減しています。

高効率照明器具(Hf蛍光灯)による昼光利用制御や不在時消灯制御を行い、照明用エネルギーを削減しています。

2 建設ゼロエミッション

今回の建設工事を開始するにあたり、建設工事中に排出される廃棄物を100%リサイクル(埋立処分ゼロ)する建設ゼロエミッションの達成を目標としています。設計段階からリサイクル可能な資材の検討やリサイクルルートの調査を行うとともに、現場における作業ルールづくりを行っています。

着工以来、現在まで継続してゼロエミッションの状態を維持しており、建物が完成する2004年9月には達成の見込みです。なお、この取り組みは、関西地区の建設工事では、先進的な取り組みとされています。

